

「ボランティア養成セミナー」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30名	31名	31名	31名（福井10、京都16、滋賀3、大阪2）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・ボランティア活動に対する意欲を高める。
- ・当施設でのボランティア活動に必要な知識や技能を習得する。

◆期日・期間

平成29年5月3日（水）～5日（金） <2泊3日>

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・大学のサークル単位の参加があったほか、近隣高校よりボランティアを志望する高校生や過去に当施設の事業への参加経験のある者が受講するなど、層の広がりが見られた。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
5月3日（水）			受付	開講式	青少年教育施設の現状	と運営【講義】	昼食	ボランティア理解	安全管理【講義】		野外炊飯準備	【講義・演習】		たき火【講義・演習】		テント泊	【講義・演習】	就寝
5月4日（木）	起床	朝のつどい	朝食	選択活動	【講義・演習】	磯遊びなど	昼食	青少年教育	【講義】	安全管理	心肺蘇生法	【講義・演習】	夕食	ボランティア活動内容	【説明】	たき火	【講義・演習】	就寝
5月5日（金）	起床	朝のつどい	朝食	【講義・演習】	【講義・演習】	活動	昼食	安全管理	【講義・演習】	ボランティア登録制度	【説明】	ふりかえり	閉講式					

- 講義:「青少年教育施設の現状と運営」
講師:西岡 裕介 氏(国立若狭湾青少年自然の家所長)
- 講義「ボランティア活動の意義」
講師:澤田 猛志 氏(フリー野外教育指導者)
- 講義・演習「安全管理Ⅰ」
担当:西浦 達郎(国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
- 演習「テント泊準備・野外炊飯・たき火・テント泊」
担当:齋藤 雄 (国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
- 演習「クラフト活動」(選択活動)
担当:西浦 達郎(国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
齋藤 雄 (国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
小林 祥之(国立若狭湾青少年自然の家事業係員)
- 講義「青少年教育における体験活動」
講師:前田 勉 氏(NPO法人里豊夢わかさ理事長)
- 実習:「救命救急法」
講師:若狭消防署救命救急士
- 演習「ナイトハイク」
担当:齋藤 雄 (国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
- 講義・演習「カッター活動」
担当:西浦 達郎(国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
齋藤 雄 (国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)
小林 祥之(国立若狭湾青少年自然の家事業係員)
- 講義「安全管理Ⅱ」
担当:西浦 達郎(国立若狭湾青少年自然の家企画指導専門職)

・実習では、当施設でのボランティア活動において実践できる内容を工夫し、特に当施設に活用できるスキルの向上が図れる内容として、野外炊事・テント泊・ナイトハイクを実施した。また、教育事業における各活動のねらいや対象者の理解、身に付けさせたい力について意識し、支援する力を高めることを念頭に置いた。

◆運営のポイント

- ・それぞれの講義・演習・実技では、実際の教育事業等で子どもたちの支援を行うことを想定して行った。本施設にある物品等の正しい使い方や、子どもたちに対して何をどのように伝え、どのように支援をしていくのか、実際にボランティア自身が体験することで理解が深まる考え、講義と演習をセットで企画した。

◆安全管理のポイント

- ・野外炊事・ナイトハイク・カッター活動では、指導者を適切に配置することで、実習中の安全を図った。
- ・安全管理の講義・演習では、安全に活動を行うための事前準備について理解してもらうために、自然歩道の現状を実際に見て環境を整えたり、ハチトラップを作成したりするなどの演習を取り入れた。

3. アンケート結果

(1) アンケート (4満足 3やや満足 2やや不満 1不満)

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	78%	19%	3%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	71%	29%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	84%	16%	0%	0%

(2) 参加者の声

○感じた事

- ・ボランティアといっても楽で楽しいことばかりではないんだと改めて感じた。
- ・今まで先輩などから教わってなんとなくやってきたことが 改めてきちんと言葉や文章で学べたのがすごくよかった。他の施設にはない若狭らしさを感じられて視野が広がった。
- ・講師の方がおもしろい（ユニーク）と思った。
- ・改めてどの点に注意したらよいのか、ボランティアの大切にしなければならない点など確認することができた。
- ・人との関わり方が大切だと感じた。
- ・実習を増やしてもいいと思う。（講義より実習の方が頭に入りやすい）
- ・1年いないだけでもいろいろなことが変わったと感じた。人も環境も変わって、自分がいつもしていたことが通用しないような感じがした。
- ・普段体験できないようなことをさせていただいて3日間本当に有意義な時間でした。

○学んだこと

- ・子どもへの安全への配慮について学んだ。
- ・今回一番記憶に残ったのが「眠育」についてで、今まで子どもを夜寝かしつけることをおろそかにしていたので、今後は気をつけたいと思った。
- ・正しいキャンプの仕方を学んだ。
- ・ボランティアの根本というか、意味などをしっかりと理解できる よい機会となった。子どもへの指導、誘導の仕などのポイントを学ぶことができた。
- ・ボランティアの意義を知ることができた。
- ・自然体験学習が子どもの教育には必要だということ。
- ・初対面の方とも、自然体験活動を通じて仲を深めることができた。
- ・大学生になって、今までとは違う立ち位置なんだなと思い知らされました。
- ・実際自分が体験する立場になって、子どもを指導する立場から気を付けないといけないことなどを発見することができた。
- ・子どもを成長させるような大人の接し方。

○今後に向けて

- ・子ども最優先で考え、かつ楽しく自分のためになるように積極的に活動したい。
- ・いつもは県立の自然の家で活動していたが、若狭にも範囲を広げていきたいと思った。また、別の施設で活動する時も、今回学んだことを活かしていきたいし、他の人にも共有していきたい。
- ・ボランティアに行くときに活かしたい。
- ・今回学んだことを次回参加するボランティアの時に活用して 自分自身も成長できるように取り組みたいと思った。
- ・引き続きいろいろな体験をしていく。
- ・今後、たくさんのボランティア活動に参加したい。
- ・また、新しい気持ちで続けていきたい。
- ・多くの経験を積みたい。子どもと共に自分も成長したい。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・トビーキッズのたんけん隊や海の自然学校を想定し、野外炊事やテント泊を取り入れたことで、それぞれの技術的な内容や、安全管理に対する意識を高めることができ、今後のボランティア活動に活かそうとする意識が高まった。
- ・クラフト活動では選択制を取り入れ、各自が興味のもてる活動内容に取り組むことができた。「もしも自分が指導する立場だったら」という視点でふりかえりをし、運営側の立場として事前の準備がいかに大切かを学ぶことができた。
- ・参加者それぞれが「改めて感じた」「しっかりと理解した」ということが多かった。各自がこれから

の見通しをもち、意欲的にボランティア活動に取り組む準備を整えることができた。

(2)課題

- ・座学の時間が長くなりがちで、話を聴くだけでは理解しにくい内容もあったのではないかと感じた。講義のスタイルに工夫を加えることで、より理解が深まるのではないかと感じた。
- ・参加者の内訳をみると、佛教大学と福井県立大学の2つの組織が多くを占めている。今後は、それ以外の参加者を多く募りたい。そして、ボランティア同士が多くの仲間たちとつながりをもつことで、相互に高め合う仕掛けを作りたい。

5. 活動の様子



<アイスブレイク>



<安全管理>



<テント泊準備>



<野外炊事>



<たき火>



<クラフト活動>



<心肺蘇生法>



<ナイトハイク>



<カッター>



<講義：ボランティア活動の意義>



<講義：青少年教育における体験活動>



<集合写真>